

浮世絵コレクター

2～4人、30分、10歳以上

1. コンポーネント

(1) カード 66枚

菱川師宣	Moronobu 6枚
歌川国芳	Kuniyoshi 8枚
喜多川歌麿	Utamaro 10枚
東洲斎写楽	Sharaku 12枚
葛飾北斎	Hokusai 14枚
安藤広重	Andou 16枚

2. 準備

- (1) 各プレイヤーに7枚ずつカードを配る。
 - (2) 余ったカードは裏向きにして山札を作り、場の中央に置く
 - (3) 捨て札用のスペースを用意し、初期捨て札として山札から1枚表向きにして置く。(捨て札は全て表向き)
 - (4) じゃんけん等でスタートプレイヤーを決める。
- ※このゲームは3ラウンドで構成されます。

3. ラウンドの流れ

- (1) 場の山札の一番上のカードを2枚引き、手札に加える。
手札の上限枚数はない。
裏向きの山札からでも、表向きの捨て札からでもどちらでも良い。1枚目は山札から、2枚目は捨て札からと組み合わせさせて構わない。
- (2) 同じ作家の絵が2枚以上あれば、場に出しても良い(展覧会の開催)。その展覧会の価値は、その出したカードの中で最も低い点数となる。
同じ作家の展覧会がすでに開かれている場合、その枚数を上回る枚数で展覧会を開けばカードを場に出すことができる。このとき、同じ作家の前の展覧会のカードは全て捨て札となる。(まとめて、捨て札山に置く)
自分の手番に開ける展覧会は1つだけ。
- (3) 手札から1枚捨て山札に捨てる。
- (4) 手番を次のプレイヤーに移す。次のプレイヤーは左隣のプレイヤー。
- (5) 上記(1)～(4)を繰り返す。

4. ラウンド終了条件

- (1) 以下の2つの条件のうち、1つを満たしたら、終了条件を満たしたプレイヤーを除き、最後に全員が一回ずつ手番をプレイして1ラウンド終了。(山札が切れた場合は捨て札のみからカードを補充する)。
[1] 全プレイヤーの展覧会をあわせて5人の展覧会を開く。
[2] 山札が切れた。(最後に山札からカードを取ったプレイヤーは次の手番はない)
- (2) ラウンドが終了したら、得点源となったカード(各展覧会の一番得点の低いカード一枚)を自分の脇に置き、点数をカードで記録しておく。これらのカードは次回以降のラウンドでは使わない。
- (3) 次のラウンドは合計得点で負けているプレイヤーから始める。

5. ゲーム終了条件

- (1) 3ラウンドを行う。
- (2) 3ラウンドの合計得点が最も高いプレイヤーがこのゲームの勝者。

このゲームはクレイジーチキン(ミハエル・シャハト作)をベースにしています。

(c)2006-2009 Toshiki Sato